

# Tamkang University 淡江大学

## 所在地

台湾 新北市淡水区英専路151

ホームページ: <http://www.tku.edu.tw/>

外国語学部: 語学留学(中・英)  
経済学部: 専門留学

## 沿革

1950年に淡水英語専門学校として設立し、その後淡水文理学院となり、1980年に淡江大学となる。現在では8学部、17の博士課程、50の修士課程、49学科がある。約64万㎡に及ぶ四つのキャンパス(淡水・台北・蘭陽・網路キャンパス)に約28,000名の学生が学ぶ。台湾では有名な私立総合大学となった。教員数は約2,100名。台湾の最北部に位置し、台北市よりMRT(都市鉄道)で約30分。淡水の山々にも囲まれ、自然環境にも恵まれている。

## 特色

- 中国語専攻: 他の留学生と合同の「華語班」の授業と選択科目を履修する。
- JIC専攻: 華語班の授業と淡江大学日本語学科の演習・講義をあわせて履修する。一部の授業は本学の中国語専攻の学生と一緒に勉強するので、本学の中国語専攻の授業を聴講する等、事前に勉強しておくことが望ましい。「日本語教育実習A」は淡江大学日本語学科の授業に出席し、時にはTAを担当。中国語を母語とする学習者に対する教授法の学習・研究を行う。後半は各学生による週2時間の日本語教育実習を約10回行う。
- 英語専攻: 淡江大学の英語学科の授業および中国語の授業を受講する。
- IEC専攻: 上記、中国語専攻・英語専攻のプログラムに参加できる。
- 経済学部: 淡江大学のビジネス関係の専攻コースに入る。授業は英語で行われているものを履修する。その他に中国語の語学習得の授業等も履修することができる。

## 宿泊

寮は1989年に建設された「麗澤国際学舎」。同じ部屋で本学をはじめとする世界各国からの留学生と淡江大学生が共同生活する。2011年にリフォームされた。

## 生活

淡水河の河口近くの高台にあり、キャンパスからは台湾海峡一望の下に見渡すことができ、台湾海峡に沈む夕日の眺めは台湾一の絶景のひとつといわれている。パノラマエレベーターを備えた大学本館、明朝スタイルの宮殿教室などが点在しており、キャンパス内には整備の整った陸上競技場、レストラン、購買部などがある。海鮮料理が美味。大学周辺にはスーパー、コンビニ、飲食店が多数あり、生活に不自由はしない。寮前から台北市内へのバスも出ている。クラブ活動、同好会が盛んで自由に参加できる。淡江生の友人がすぐにでき、とても親切でホームステイも気楽にできる。グループ留学期間中は、全員先方大学の管理の下で生活する。

## 条件

- 中国語専攻: 中国語基礎演習ⅢまたはⅣを修了していること。
- JIC専攻: 中国語ⅢまたはⅣを修了していること。または同等の実力を有すること。  
※留学できる年次の条件など詳細については、専攻に確認のこと。
- IEC専攻: 中国語ⅢまたはⅣを修了していること。クロス留学は下記条件を満たすこと。
- 英語専攻: クロス留学。中国語Ⅲを修了していること。TOEFL (ITP) 470点またはTOEIC (IP) 550点以上。それに満たない場合も英語と中国語の授業で優秀な成績を修め英語専攻専任教員の推薦があれば可能。
- 経済学部: TOEFL (ITP) 475点以上。

## 留学時期

- 中国語専攻/IEC専攻: 2年次第2学期の半年間、3年次第1学期の半年間が原則。
- JIC専攻: 2年次第2学期または3年次第1学期の半年間または10ヶ月間。
- 英語専攻(クロス留学): 2年次第2学期または3年次第2学期の半年間または10ヶ月間。
- 経済学部: 2年次または3年次第2学期から半年間または10ヶ月間。



宮殿教室



麗澤国際学舎



外国語大樓



図書館



プール



2012/06/16

## 台湾留学生活

外国語学部日本語・国際コミュニケーション専攻 2016年留学 土橋 春香

私は台湾の淡江大学に約4か月間留学をしました。台湾留学の寮生活、学習状況の二点についてご紹介したいと思います。

まず寮生活についてです。私たち麗澤大学からの学生は麗澤学舎という寮で生活をします。この麗澤学舎では現地の台湾人、様々な国から来た留学生たちと一緒に共同生活を送りました。この麗澤学舎に住んでいる台湾人たちは皆、私たち外国人と交流したいという思いがあり、ウェルカムパーティーや様々なイベントを企画し、留学生と交流する機会を設けてくれます。この寮では、台湾人はもちろん、アジア圏、ヨーロッパ圏といった様々な国から来た留学生と共同生活をするため、多くの異文化交流をすることができます。この異文化

体験で日本人の自分自身についての良いところ、悪いところも気づくことができました。協調性を重視しすぎて自分の意見を言うことができなくなるという経験がこの留学生活では多々ありました。このように日本人の長所、短所も発見できたように思います。

台湾に来る以前、私は寮生活の経験がなく大人で共同生活をして、自分の部屋は3人1部屋という環境にプライベートな時間がないのではないかと不安しかありませんでした。しかし留学生活が始まり、慣れてきたころには様々な国の寮生と交流することの楽しさを実感し、一人でいる時間ももたないと思うようになっていきました。寮のみならず一緒に食事をしたり、旅行をしたり、春休みには寮生数人と台湾南部を旅行したり、時には課題を見てもらったり、一緒に勉強をしたりと寮生と交流する機会が多くあります。仲良くなった台湾人の友達には、毎週末を利用し、私たち留学生数人を台湾北部から南部まで

旅行し、台湾のあらゆる場所を案内してくれて、台湾の文化を教えてくださいました。

二つ目に、学習状況についてです。淡江大学の授業内容は自分の専攻に関係なく自分の好きな科目を履修することができます。私は日本語・国際コミュニケーション専攻ですが、中国語、英語といった語学中心の科目を履修することを希望していたため、日本語で授業を受ける科目は履修しませんでした。しかし今となっては、中国語が初級レベルの私には、台湾人と一緒に中国語の授業を受けて、授業内容を理解するのが困難なことよりも、あえて日本語の授業を受けることで、中国語のボキャブラリーを増やし、台湾で日本語がどのように教えられているのかといった勉強をすることも一つの手段だったかのように思えます。

私は、中国語の授業のほかに英語の授業も受けていました。淡江

大学の学生は基本的に皆英語を喋ることができます。中でも、英語学科や国際系学科の学生の英語能力はとても高いです。その学生たちと一緒に授業を受けていたため、自分の英語能力に心が折れそうになることもありましたが、台湾の学生についていくことに必死にならながらも、なんとか無事終えることができ、今後の英語学習に関する課題もみつめることができました。

留学生のほとんどが受ける中国語の授業では、レベルごとに初級～高級までクラス分けされており、自分に合ったレベルの中国語の授業を受けることができます。私は中級クラスで授業を受けていたが、アジア人の学生がとても少なく、ヨーロッパ人が多かったため、授業中は中国語に加えて英語の学習をすることもできました。この留学生向けの中国語の授業では、余裕をもって楽しく授業を受けることができました。